

いけうち

湿度管理で製造環境を改善 加湿システム「エアールム」「エアハイブリッド」

霧のいけうち（㈱いけうち）は、印刷工場・倉庫の湿度環境を最適な状態に保つための加湿システムとして、ハイプレッシャー加湿システム「AirULM エアールム」と、省エネ&スピード加湿を両立させた加湿システム「AirHYBRID（エアハイブリッド）」の拡販を進めている。

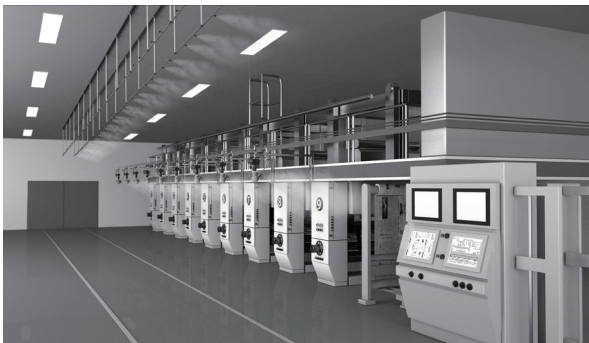
また、他の加湿方式と比べて加湿量を多く設計できることから、換気量の多い空間や天井の高い建屋などでも効果的に加湿すること

ができる。また「AirHYBRID」は、1 流体と 2 流体の 2 つの加湿方式を組み合わせることで、省エネ性能とスピード加湿を実現。1 流体と 2 流体のメリットを生かした加湿システム（蒸気式・気化式・1 流体方式）では、インキパンや

ができる。

また「AirHYBRID」は、1 流体と 2 流体の 2 つの加湿方式を組み合わせることで、省エネ性能とスピード加湿を実現。1 流体と 2 流体のメリットを生かした加湿システム（蒸気式・気化式・1 流体方式）では、インキパンや

「AirULM」は、平均粒子径 10〜30 μ m の霧（セミドライフォグ）を噴霧して現場湿度を上昇させる、産業空調用ハイプレッシャー加湿システム（1 流体加湿システム）。稼働時にコンプレッサーエアを使用せず、高圧ポンプで微粒化を行う。そのため一般的な



AirULM（エアールム）



AirHYBRID（エアハイブリッド）

ロール付近など湿度が上昇しにくい場所があった。一方、2 流体方式ではランニングコストがかさむといった課題があった。

しかし、ハイブリッド加湿にすることで、1 流体加湿器によつて湿度のベースを整え、2 流体加湿器により実際に湿度の必要な個所を低コストかつ最適な湿度に維持することが可能になる。グラビア印刷工場などの有機溶剤を多用する現場では多くの換気量が必要となることから、最適なシステムとなる。

なお、いずれのシステムも、経済産業省の補助金制度の省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金（Ⅱ）電化・脱炭素燃転型」および省エネルギー投資促進支援事業費補助金（Ⅲ）設備単位型」の対象設備となっている。そのため、設備導入時には補助金の申請が可能となる。

▽㈱いけうち 0120-997-084